

# おーい どんげだね!!

2014年2月15日

万代地域コミュニティ協議会

発行者：丸田 喜也

新潟市中央区天明町19-16

= 万小最後の校舎で最後の授業が地域に伝えたもの =

万代小学校  
さよならイベント

実行委員会代表

79年度卒業

赤星 聡



前々から  
トを実施  
しました。  
噂のあっ

年の瀬も押し詰まった12月28日、旧万代小学校校舎において地

域を上げたいイベントを実施しました。前々から噂のあった校舎解体、東万代町に長きに渡り地域のシンボルとして存在し続けてきたその姿がなくなるということから発したイベントでした。11月中旬、万代地域コミュニティ協議会様より相談を受け、直ぐに実行委員会を立ち上げました。初めはメッセージを落書きする程度で考えておりましたが、地域に多大な貢献をしてきた校舎であったことから盛大なお祭りイベントに変えようという意見を出し合いました。ふと数年前、恩師（高校時代の担任）の定年退職時に卒業生を集め、最後に授業をしたことを思い出しました。それを今回のメインとして提案したところ、メンバー全員が賛同し、まさに「最後の校舎で最後の授業」というテーマが校舎に対する最高の花道になると感じました。更には世代間で

一体感を醸し出そうと万代小学校の象徴でもあった万代太鼓を全員参加型として組み入れることでイベントに厚みを増しました。ただ全てが急造企画、僅か一ヶ月余りの中でどれだけの地域にどれだけ受け入れられ、どれだけの方々が参加して下さるのだろうか、果たして成功するのだろうかと不安だけが先行しました。

迎 えた当日、予想に反して方々が会場に集まってきました。いざ万代太鼓が始まるとそれま

叩く姿がいつしか当時を呼び起こし、それが感動に変わり、参加者ほとんどの目頭が熱くなっていました。続いてメインとなる授業では先生が15年ぶりに教壇に立ちました。色あせない軽妙な語り口ですぐさま参加者を引き込むところなど流石だと感銘を受けました。締めには授業の参加者全員で校歌を熱唱。歌詞を黒板に掲げましたが、その必要はなく、見渡せば若い世代からお年をめされた世代まで満面の笑みを浮か



加納正紘先生(77年~81年奉職)、「性向善」説について授  
田村功先生(73年~79年奉職)「幸せさがし」について授業。

今も元気な両先生は、人情味ある軽妙な語り口でみんなの関心を引く最後の授業でした。

での不安が全て一気に吹き消されました。親友をはじめとする世代を超えた卒業生、更には先生が飛び入りで太鼓を



世代をこえた卒業生みんなが、かつての教室で記念撮影。万代太鼓の音がにぎやかに校内を響き渡った。



茜色に染まる解体前の万代小学校。現在解体中。上は参加者がそれぞれの慕いを落書きで廊下の壁に一言一言。右は校庭内プレハブに保管されていた校歌の額



べながら歌っていました。今回このイベントを通して感じたこと、年月が経っても生徒に対する先生の変わらぬ愛情、私ら卒業生の学校への思い、そして永遠なる友情、地域住民の方々の思いやり、そして全てを成功に導くこととする参加者全員の絆が伝わった記憶に残るイベントになりました。実施してよかったの一言に尽きます。最後に万代地域コミュニティ協議会様をはじめ、各自治会様、関係した多くの皆様に本当に感謝申し上げます。

中央区地域活動ふれあいの集い

地域コミュニティ協議会の活性化を推進する... 感謝の集い」が2月5日新潟ユニゾンクラブにて開催され、あわせて東京都立川市の大山自治会会長：佐藤良子氏が「孤独死ゼロ 大山自治会の挑戦」と題して講演をおこなった。平成11年から会長に就任し、「いまちとは何か」について次の3点をあげ、まず①行きたい学校がある②帰りたい家がある③住み続けた地域がある。会長自身が歩んできた経験を様々な角度から話していただいた。



みつわクラブ節分祭

2月4日来賓と会員39名が三社神社に集い毎年恒例の節分祭を執り行いました。



新年祈願祭・祝賀会

流作場南地区防連、万代地区防連

安全祈願 2月11日 三社神社 参列者95人 祈願祭のあと参列者一同会食を共にしながら今年の活動のこと、地域の防火防犯、防災のことなどについて懇談した。

地域の歴史13冊

沼垂・新潟合併百年

「祝もろ人うれしくも、われらは成りぬ大市民 慣れし衣をぬぎかえて 新たにまとう 晴れの衣 古き歴史にわかれいくー」 沼垂の青年協会は沼垂・新潟の合併を祝い鉄道唱歌の替え歌で町内をねり歩いた。1913年(大正2)合併の是非で混乱する沼垂町にあって、流作場は沼垂町を脱し、一村独立しての合併請願書を県知事に提出した。この行動が合併の促進力となり1914年、新しい新潟市が誕生した。合併までの交流の歴史を積み重ねた人物こそ明治35年から明治43年まで沼垂町長を務めた流作場の安倍九二造であった。

セーフティパトロール(平成25年末)

年末を控えた平成25年12月20日、今年最後の新潟駅前セーフティパトロールが実施された。年末パトロールということもあり当日は新潟県知事、新潟市長、県警本部長、公安委員の皆さんも激励に訪れた。万代地域コミュニティ協議会関係では、毎月全自治町内会に交替で参加を割り当て、協力いただいているもので、12月はコミ協の正副会長、事務局が参加した。小雨の中、グループに分かれパトロールを行ったが、年末の忘年会シーズンの最盛期ということもあってネオンの街は大変な賑わいであった。このパトロールは駅前地区の関係者が新潟市や警察と協力し、駅前の環境健全化に努めているもので、当地域からはコミ協の他に、万代地区防火防犯防災連合会、花園一商工振興会、東大通1丁目自治会も毎月参加している。近年ピンクピラはほぼ撲滅することはできたが、新潟県迷惑行為等防止条例改正にもかかわらず引きが横行していることから、警察活動の強化や防犯カメラの行政による設置を求める声は多い。いろいろな課題はあるものの今年一年事故も無くほっとしている。



県知事、市長へ駅前前で報道各社のインタビュー



みやの万代ぶつぶつ

自治 ヒト、モノ、カネ !!

2月2日の市報にいがた市長随想「ひこうき雲」の中で、いくつかの重点施策として、地域自治を深化させたいとある。「政令市を築いていくには、コミュニティ協議会やNPO、ボランティア団体などとの協働が欠かせません」と強調している。行政主導の組織で代表的なものは中央区自治協議会、中央区コミュニティ協議会がある。各々が自治という観点から機能しているかどうか。市民と行政の接点としてうまくつながっているかどうか。1月28日に中央区コミュニティ協議会連絡会臨時総会が開かれた。昨年発足した連絡会はコミ協独自の活動をするというヨコの組織である。「ヒト・モノ・カネ」いずれも欠ければ成立も存続もなくなる。ちなみに当コミ協の最大課題である万代小跡地問題はー。 ヒト=高齢化対策、リーダーの育成。モノ=組織の活性化。カネ=市の予算。大丈夫かな。 宮川 善徳

編集後記 第14号発行して

小雪とおもいきや、思わぬ大雪。暦は雨水氷が雨に変わる季節となり、町のあちこちに草木の芽生えが始まって、かすかに風は春のにおいが感ぜられます。新しい年度はもうすぐ。新一年生が町に彩りをそえるのもう目の前です。 広報部 田所曉雄